

京鹿の子絞り ガイドブック

京鹿の子絞りとは？

「絞り」は糸などで生地をくくったり、しめたりして、染めたくない部分を「防染」し、70℃から 90℃以上の熱い染料で染めるのが特徴です。

その中でも、「京鹿の子絞り」はその細かさで日本の伝統工芸品になっています。

染め上がった括りの模様が小鹿の背模様の斑点に似ていることから「鹿の子絞り」と言われています。

歴史

年	出来事
720	日本書紀に「纈（けち）」が見られる。日本での絞りの始まりと言われている。
756	法隆寺献物帳に「臈纈（ろうけち）、纈纈（こうけち）、夾纈（きょうけち）」が見られる。三纈の始まり。
1008	源氏物語に「くくり染」が見られる。
1528	宗五大草紙に「辻が花染」が見られる。小袖に「辻が花」が使われる。
1730	鹿の子絞りの大流行。
1803	「鹿の子」の髪飾りが流行。

作品紹介。



高さ 2.5m

全長 6 m

絞り紅葉の巨大几帳

八坂の塔から高台寺、知恩院、永観堂までが紅葉の合間に覗く絶景が1枚1枚職人の手によって、染め上げられている。



板締め絞りのスカーフ。



板締め絞りのスカーフ。

体験教室

体験教室の様子。



工芸員の説明を聞いています。



このように木の板で止めてから着色するらしいです。



染めているところです。



1回目染めたところ。きれいに型が取れています。



2回目染めたところです。



完成



色々な絞りについて教えてもらえました。

京都絞り工芸館へのアクセス

京都市中京区油小路通御池南入ル

